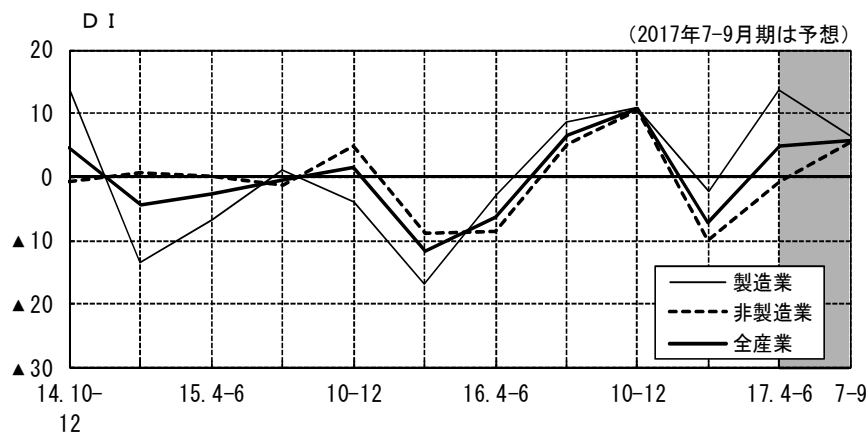


### 業況概要(自社) ～ 製造業、非製造業とも再び上昇に転じる ～

静岡県東部地域における2017年4-6月期の業況判断DI(対前期比)は、全産業で4.9(前期▲7.1)と再び上昇に転じた。製造業は、金属製品では前期比低下となったが、パルプ・紙・紙加工品と食料品で大幅な改善がみられたことから、全体で13.8(前期▲2.2)と大きく回復し、2期ぶりにプラス水準となった。非製造業でも旅館・その他宿泊所でDIが前期比低下したが、卸・小売・サービス業全体、建設業では改善したため、全体でも▲0.7(前期▲10.1)と反転上昇している。

2017年7-9月期の予想DI(今期比)は全産業で5.7と若干ながら上昇が見込まれている。業種別でみると製造業では6.4と今期比低下しているが、非製造業では5.3とさらなる上昇期待がみられる。

#### 《業況判断指数推移》



全産業DI

年次	期	DI
14年	10-12	4.7
15年	1-3	▲4.4
	4-6	▲2.6
	7-9	▲0.4
	10-12	1.5
16年	1-3	▲11.7
	4-6	▲6.3
	7-9	6.5
	10-12	10.6
17年	1-3	▲7.1
	4-6	4.9
	7-9予想	5.7

DI: ディフュージョンインデックス(Diffusion Index)の略。

「上昇、増加、好転」した企業割合から「下降、減少、悪化」した企業割合を差し引いたもので、業況判断を見る指標です。

#### 《業種別天気図》

業況上昇 ← → 業況下降

	製造業	食料品	パルプ・紙・紙加工品	一般機械器具	非製造業	卸・小売・サービス業	旅館・その他宿泊所	建設業
2017年1-3月期	☁	☁	☁/☂	☁	☁/☂	☁/☂	☁/☂	☁
2017年4-6月期	☁/☂	☁	☁/☂	☁	☁	☁	☁/☂	☁
2017年7-9月期	☁	☁/☂	☁	☁	☁	☁	☁/☂	☁

※2017年1-3月期、4-6月期は前期比、7-9月期は今期比予想

#### 《調査の概要》

- 調査目的  
静岡県東部地域(富士川以東)の景気動向と先行きを予測し、主要産業の実態を把握
- 調査対象企業  
静岡県東部地域に立地する企業 417社  
回答数 244 (回答率 58.5%)  
※業種別企業数は4ページ図表を参照
- 調査方法  
当研究所の指定した項目につき、記名式で実績と見通しを記入するアンケート調査
- 調査対象期間  
実績: 2017年4-6月期  
見通し: 2017年7-9月期
- 調査時点  
2017年5-6月

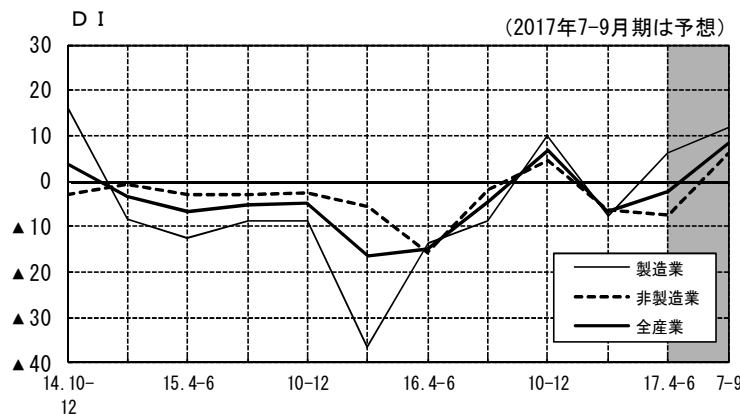
売上動向

製造業は上昇に転じプラス水準を回復、非製造業はわずかに低下

2017年4-6月期の全産業の売上動向D I (対前期比)は▲2.0 (前期▲6.8)と上昇に転じた。製造業では金属製品 (前期15.4→今期▲28.6:以下同じ)、その他製造業 (8.8→0.0)などでD Iが前期比低下となったが、食料品 (▲33.3→57.1)とパルプ・紙・紙加工品 (▲46.7→20.0)の大幅な改善により、全体では6.4 (前期▲7.5)となり、2期ぶりにプラス水準を回復した。一方、非製造業ではその他小売・サービス業等 (▲14.7→▲6.9)でD Iが上昇したが、旅館・その他宿泊所 (6.3→▲5.3)と建設業 (6.4→▲9.1)では低下したため、全体のD Iは▲7.3 (前期▲6.3)とわずかに低下しており、製造業とは異なる推移を示している。

2017年7-9月期の予想D I (今期比)は、全産業で8.2と上昇している。業種別では製造業が11.7、今期低下した非製造業でも6.0と回復が見込まれている。

《売上動向の推移》



	前期	今期
製造業計	▲7.5	6.4
食料品	▲33.3	57.1
パルプ・紙・紙加工品	▲46.7	20.0
金属製品	15.4	▲28.6
一般機械器具	▲5.3	▲6.3
その他製造業	8.8	0.0
非製造業計	▲6.3	▲7.3
卸・小売・サービス業計	▲11.7	▲6.6
旅館・その他宿泊所	6.3	▲5.3
その他小売・サービス業等	▲14.7	▲6.9
建設業	6.4	▲9.1

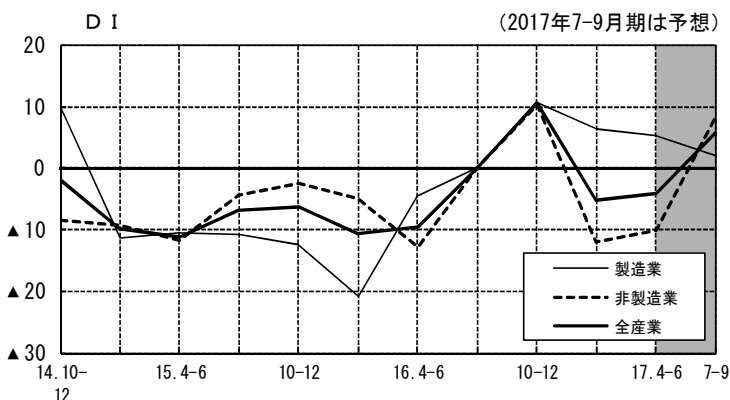
利益動向

製造業は2期連続で低下もプラス水準、非製造業は若干の上昇に転じる

2017年4-6月期の全産業の利益動向D I (対前期比)は▲4.1 (前期▲5.2)と若干の改善となった。製造業では、食料品 (前期▲8.3→今期50.0:以下同じ)とパルプ・紙・紙加工品 (▲26.7→6.7)でD Iが大幅に上昇したが、金属製品 (15.4→▲14.3)、その他製造業 (23.5→▲2.9)などでは低下したため、全体では5.3 (前期6.5)と2期連続で低下したものの、引続きプラスの水準にある。一方、非製造業では旅館・その他宿泊所 (12.5→▲36.8)でD Iが大幅に低下、建設業 (4.3→▲4.7)でも低下したが、その他小売・サービス業等 (▲24.0→▲6.9)で改善が進んだため、全体では▲10.1 (前期▲11.9)と若干の上昇に転じている。

2017年7-9月期の予想D I (今期比)は、全産業で5.8と売上動向同様に改善への期待がみられる。ただし、業種別では非製造業で8.1と回復への期待感が強いのに対し、製造業では2.1と低下が見込まれている。

《利益動向の推移》



	前期	今期
製造業計	6.5	5.3
食料品	▲8.3	50.0
パルプ・紙・紙加工品	▲26.7	6.7
金属製品	15.4	▲14.3
一般機械器具	5.3	0.0
その他製造業	23.5	▲2.9
非製造業計	▲11.9	▲10.1
卸・小売・サービス業計	▲18.8	▲12.3
旅館・その他宿泊所	12.5	▲36.8
その他小売・サービス業等	▲24.0	▲6.9
建設業	4.3	▲4.7

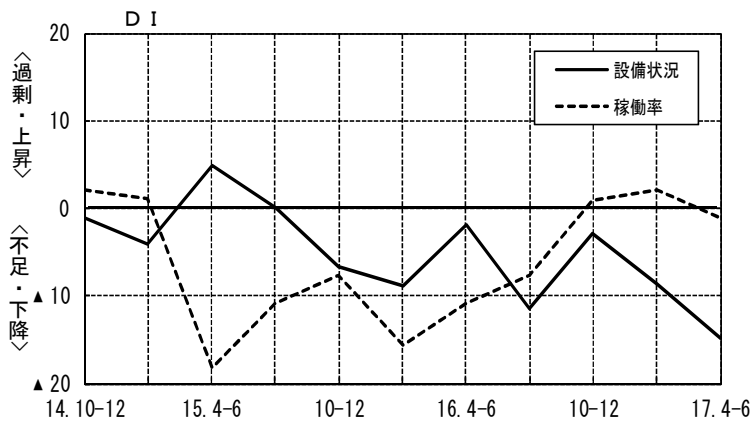
設備状況・稼働率  
(製造業)

設備状況は「不足」感強まる、稼働率は前期比「下降」に転じる

2017年4-6月期の設備状況DIは▲14.9(前期▲8.6)と2期連続で低下し、「不足」感がさらに強まっている。業種別では、金属製品(0.0→0.0)のみDIが横ばいで推移したが、その他製造業(▲5.9→▲17.1)、パルプ・紙・紙加工品(▲6.7→▲13.3)などはいずれも低下し、「不足」の判断が続いている。

一方、稼働率DIは▲1.1(前期2.2)と前期比で小幅な下降に転じた。業種別ではパルプ・紙・紙加工品(▲26.7→6.7)と食料品(▲16.7→7.1)では大幅な改善となった一方、金属製品(23.1→▲21.4)やその他製造業(20.6→5.7)などはいずれも低下しており、業種間での動向の差が顕著になっている。

《設備状況・稼働率の推移》



設備状況	前期	今期
製造業計	▲ 8.6	▲ 14.9
食料品	▲ 25.0	▲ 28.6
パルプ・紙・紙加工品	▲ 6.7	▲ 13.3
金属製品	0.0	0.0
一般機械器具	▲ 10.5	▲ 12.5
その他製造業	▲ 5.9	▲ 17.1

稼働率(対前期)	前期	今期
製造業計	2.2	▲ 1.1
食料品	▲ 16.7	7.1
パルプ・紙・紙加工品	▲ 26.7	6.7
金属製品	23.1	▲ 21.4
一般機械器具	▲ 10.5	▲ 12.5
その他製造業	20.6	5.7

在庫状況  
(製造業)

「過剰」感やや強まる

2017年4-6月期の在庫状況(製造業)DIは6.4(前期4.3)と前期比上昇に転じ、「過剰」の判断がやや強まっている。全体での回答状況を見ると、「不足」の割合は5.4%→5.3%でほぼ横ばいとなったが、「過剰」とする割合が9.8%→11.7%とやや上昇している。

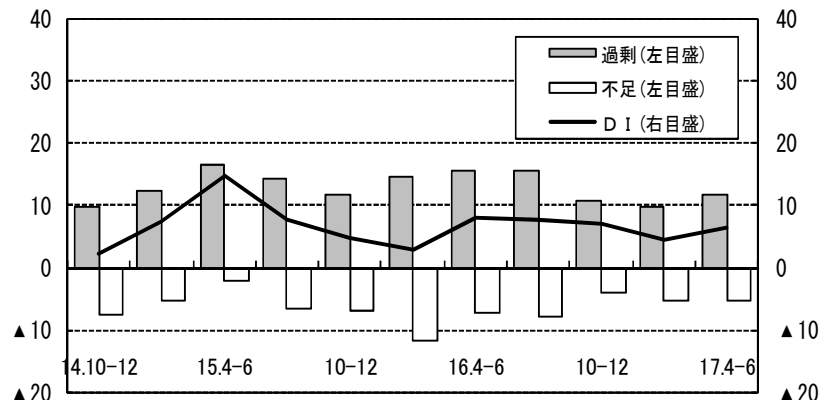
業種別では、食料品(0.0→0.0)と金属製品(0.0→0.0)はいずれもDIが横ばいで推移し「適正」の水準を維持している。また、その他製造業(8.8→2.9)ではDIが前期比低下し、「過剰」感は弱まっている。一方、パルプ・紙・紙加工品(0.0→13.3)と一般機械器具(5.6→18.8)ではDIが上昇し、いずれも「過剰」感が強まる方向にある。

《在庫状況》

	(前期) 2017年 1-3月期	(今期) 2017年 4-6月期
過 剰	9.8 %	11.7 %
適 正	84.8 %	83.0 %
不 足	5.4 %	5.3 %
D I	4.3	6.4

(%は回答企業の比率)

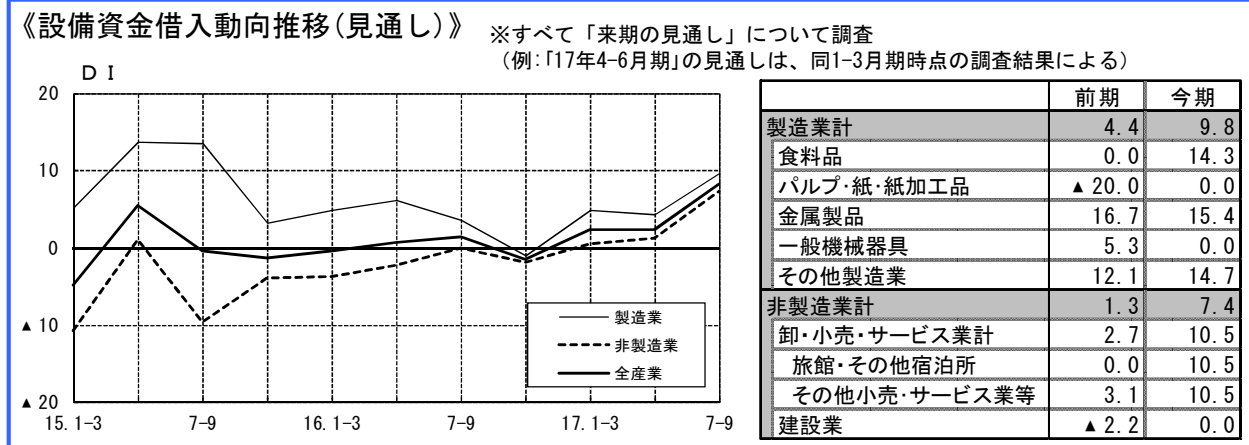
《在庫状況の推移》



設備資金借入  
動向(来期)

製造業、非製造業とも「借入増加」の基調続く

2017年7-9月期(来期)の全産業の設備資金借入動向(見通し)DIは8.3(前期2.4)と上昇し、「借入増加」の基調が続いている。業種別で見ると製造業では一般機械器具(5.3→0.0)などでDIがやや低下したが、パルプ・紙・紙加工品(▲20.0→0.0)や食料品(0.0→14.3)などで前期比上昇したため、全体でも9.8(前期4.4)と上昇に転じている。一方、非製造業では各業種ともDIが上昇したため、全体でも7.4(前期1.3)と3期連続での上昇となっている。



経営上の問題点

「人材の育成」「従業員の高齢化」が「受注・売上の停滞・減少」上回る

従来回答割合が最も高かった「受注・売上の停滞・減少」(48.0%→40.6%)は前期比で約7ポイント低下し、「人材の育成」(46.4%→44.7%)と「従業員の高齢化」(38.1%→41.4%)がこれを上回った。また、「原材料・仕入商品の値上がり」(19.4%→22.5%)も回答する企業の割合が高まっている。

《経営上の問題点(上位8項目)》

(社、%)

	16年10-12月期		17年1-3月期		17年4-6月期		順位 変動
	企業	比率	企業	比率	企業	比率	
1. 人材の育成	117	46.1	117	46.4	109	44.7	↑
2. 従業員の高齢化	85	33.5	96	38.1	101	41.4	↑
3. 受注・売上の停滞・減少	127	50.0	121	48.0	99	40.6	↓
4. 求人難	78	30.7	88	34.9	75	30.7	→
5. 過当競争・製品安	71	28.0	63	25.0	58	23.8	→
6. 原材料・仕入商品の値上がり	38	15.0	49	19.4	55	22.5	↑
7. 生産・販売能力の不足	53	20.9	57	22.6	52	21.3	↓
8. 人件費の増加	60	23.6	48	19.0	51	20.9	→

《業種別：回答企業数およびDI》

※設備資金は来期の見通し、それ以外は今期実績

業種	企業数	売上動向	利益動向	設備状況	稼働率	在庫状況	設備資金
製造業計	94	6.4	5.3	▲14.9	▲1.1	6.4	9.8
食料品	14	57.1	50.0	▲28.6	7.1	0.0	14.3
パルプ・紙・紙加工品	15	20.0	6.7	▲13.3	6.7	13.3	0.0
金属製品	14	▲28.6	▲14.3	0.0	▲21.4	0.0	15.4
一般機械器具	16	▲6.3	0.0	▲12.5	▲12.5	18.8	0.0
その他製造業	35	0.0	▲2.9	▲17.1	5.7	2.9	14.7
非製造業計	150	▲7.3	▲10.1	-	-	-	7.4
卸・小売・サービス業計	106	▲6.6	▲12.3	-	-	-	10.5
旅館・その他宿泊所	19	▲5.3	▲36.8	-	-	-	10.5
その他小売・サービス業等	87	▲6.9	▲6.9	-	-	-	10.5
建設業計	44	▲9.1	▲4.7	-	-	-	0.0